

# “差点儿”に関する覚え書き

井上 優\*

## 1. 問題

本論では、中国語の副詞“差点儿 chādiǎnr (差一点 chāyīdiǎn)”(あやうく、もう少しで)を含む文の意味解釈に見られる非対称性について、若干の考察をおこなう。

朱(1980)は、“差点儿”(朱1980では“差一点”)を含む文の意味解釈を、述語で表される事態が「望ましい事態」の場合と「望ましくない事態」の場合とに分けて整理している(この分析は朱1959にさかのぼる)。

述語で表される事態が望ましい事態(以下「P<sup>+</sup>」と表記)の場合、“差点儿+P<sup>+</sup>”は「もう少しでP<sup>+</sup>を実現できるところだった(が実現しなかった)」ということを表し、“差点儿+没P<sup>+</sup>”は「もう少しで(あやうく)P<sup>+</sup>を実現できないところだった(が実現した)」ということを表す。

(1) a. 差一点买着了(没买着)

(もう少しで買えるところだった(買えなかった)。)

b. 差一点没买着(买着了)

(もう少しで買えないところだった(買えた)。)

(朱1980(松村・杉村訳1988):239)

一方、述語で表される事態が望ましくない事態(以下「P<sup>-</sup>」と表記)の場合は、“差点儿+P<sup>-</sup>”と“差点儿+没P<sup>-</sup>”はいずれも「もう少しで(あ

---

\* いのうえ・まさる 麗澤大学外国語学部教授

やうく) P<sup>-</sup>が発生するところだった(が発生しなかった)」ということを表す。“差点儿+ P<sup>-</sup>”と“差点儿+没 P<sup>-</sup>”が同じ事態を表すことから、後者の否定辞“没”は余剰的 (redundant) な成分とされる。

(2) a. 差一点打碎了(没打碎)。  
 (もう少しでうちくだかれるところだった(うちくだかれなかった)。)

b. 差一点没打碎(没打碎)。(2a)と同義)

(朱 1980 (松村・杉村訳 1988):239)

“差点儿”の意味解釈に見られるこのような非対称性は、次の(3)のようにまとめられる。“差点儿”は意味的に一種の否定辞であり、“差点儿…”は通常「もう少しで…となるところだったが、…とはならなかった」ということを表す。しかし、“差点儿+没 P<sup>-</sup>”だけは、“差点儿+没 P<sup>-</sup>= P<sup>-</sup>”とはならず、に、“差点儿+没 P<sup>-</sup>=没 P<sup>-</sup>”となる点で例外的である。

(3)

	肯定形式	否定形式
望む	A 差一点买着了=没买着 [差点儿+ P <sup>+</sup> =没 P <sup>+</sup> ]	B 差一点没买着=买着了 [差点儿+没 P <sup>+</sup> = P <sup>+</sup> ]
	C 差一点打碎了=没打碎 [差点儿+ P <sup>-</sup> =没 P <sup>-</sup> ]	D 差一点没打碎=没打碎 [差点儿+没 P <sup>-</sup> =没 P <sup>-</sup> ]

(朱 1980 (松村・杉村訳 1988):240 の表に [ ] の部分を追加)

辞書の記述も上記の説明を踏襲している。(4)は『白水社中国語辞典』、(5)は『小学館中日辞典第3版』の説明である(後者の説明は呂主編(1999)

の説明に準拠している)。それぞれの説明が (3) の A～D のどのケースに該当するかを [ ] で示す。

(4) 危うく、もうちょっとで、もう少しで。

① [→ (3) C、D]

(話し手がある事柄の実現を望まない場合は、‘差点儿’と‘差点儿没’は共にその事柄が実現しなかったことを示す。)

差点儿 [没] 掉进河里。(危うく川に落ちるところだった。)

② [→ (3) A、B]

(話し手がある事柄の実現を望む場合は、‘差点儿’はそれが実現されなかったことを、‘差点儿没’はそれが幸いにも実現されたことを示す。)

那场比赛我们差点儿 [就] 赢了。(もうちょっとで勝つところだったのに。)

差点儿没买到。(もう少しで買えないところだった。)

(『白水社中国語辞典』143 ページ、下線井上)

(5) もう少しで。危うく。▶ある事態が少しの差で起きるか、あるいは起きないかを表す。“差一点儿”、“差点儿”とも。

a [→ (3) C、D]

望ましくない事態を危うく免れたことを表し、「幸いなことに」という気持ちを含む。後に続く動詞が肯定でも否定でも結果としての意味に変わりがない。

差点儿 (没) 摔倒。(危うく転んでしまうところだった。)

差点儿 (没) 误了车。(すんでのところで列車に乗り遅れるところだった。)

b [→ (3) B]

望ましい事態が実現しそうになかったのに実現したことを表し、「幸いなことに」という気持ちを含む。後に続く動詞には必ず否定の形を用いる。

我去晚了，差点儿没见着他。（遅れて行ったので、もう少しで彼に会えないところだった。）

这书卖得太快，差点儿没买到。（この本はとてもよく売れるので、危うく買えないところだった。）

c [→ (3) A]

望ましい事態が実現しそうで結局は実現しなかったことを表し、「惜しいことをした」という気持ちを含む。後に続く動詞は肯定の形で、多くの場合その動詞の前に“就”を置く。

他的成绩不错，差点儿就考上大学了。（彼の成績はかなりよいが、惜しいことに大学に合格しなかった。）

我差点儿就买到电影票了，早来一会儿就好了。（私は惜しいことに映画の券が買えなかった、もう少し早く来ればよかった。）

（『小学館中日辞典第3版』178ページ、下線井上）

このように、“差点儿”の意味解釈には「事態の望ましさ」と「述語の肯否」という二つのことが関わっている。これは一見複雑に見えるが、問題のポイントは次の(6)に集約される。

- (6) “差点儿+没P-”（表(3)のD）だけが他のケースと意味解釈のあり方が異なるのはなぜか？

以下ではこの問題について考察をおこなう。なお、“差点儿”の意味解

釈に「事態の望ましさ」が関与しているという一般化に対しては別の提案もなされているが（渡辺 1994、石 2001）、本論では朱（1980）の一般化を基本線としては正しいものとして議論を進める。(6)の問題と“差点儿”の意味解釈に関わる要因をどのように一般化するかという問題とは、まずは切り離して議論するのがよいと考えるからである（朱 1980 も「望ましい事態」と「望ましくない事態」という区分について、「これは問題を単純化したのである」と述べている）。

## 2. “差点儿+P<sup>-</sup>”と“差点儿+没P<sup>-</sup>”は同義か

本節では、(6)の問題について考えるための予備的考察として、“差点儿+P<sup>-</sup>”と“差点儿+没P<sup>-</sup>”が同義になる——“差点儿+没P<sup>-</sup>”がP<sup>-</sup>という意味にならず、“没P<sup>-</sup>”という意味になる——とはどういうことかについて考える。

“差点儿+没P<sup>-</sup>”がP<sup>-</sup>という意味にならないことについては、次の二つの可能性がある。

- ① “差点儿+没P<sup>-</sup>”においては、“没”が実質的な否定辞として機能しない。そのため、“差点儿+没P<sup>-</sup>”は“差点儿+P<sup>-</sup>”と同じように解釈され、“没P<sup>-</sup>”ということ述べる文になる。
- ② “差点儿”は一種の否定辞だが、“差点儿+没P<sup>-</sup>”においては、“差点儿”が否定辞として機能しない。そのため、“差点儿+没P<sup>-</sup>”はP<sup>-</sup>ではなく、“没P<sup>-</sup>”ということ述べる文になる（“没”は実質的な否定辞として機能している）。

前述のように、朱（1980）は“差点儿+没P<sup>-</sup>”の否定辞“没”を余剰的な成分とする。これは①の見方に立つということである。これに対し、

本論は②の見方に立つ。“没”が否定辞として機能しなくなるのと、“差点儿”が否定辞として機能しなくなるのでは、後者のほうが起こりやすいと考えるからである。具体的には次のように考える。

“差点儿”は「一歩手前」ということを表す。そして、“差点儿…”は通常「…となる一歩手前のところだった（…とはならなかった）」という解釈がなされるが、“差点儿+没P-”だけは「(P-となる) 一歩手前のところで“没P-”だった」という異なる解釈がなされる。「一歩手前のところだった」という述語的な意味が「一歩手前のところで」という副詞的な意味に読み換えられた結果、“差点儿”が否定辞として機能しなくなる。

(7) (望ましい事態)

- a. 差点儿买着了 (没买着)。 [差点儿+ P<sup>+</sup>]  
(買える一歩手前だった (買えるには至らなかった。))
- b. 差点儿没买着 (买着了)。 [差点儿+ 没P<sup>+</sup>]  
(買えない一歩手前だった (買えないには至らなかった。))

(8) (望ましくない事態)

- a. 差点儿打碎了 (没打碎)。 [差点儿+ P<sup>-</sup>]  
(うちくだかれる一歩手前だった (うちくだかれるには至らなかった。))
- b. 差点儿没打碎 (没打碎)。 [差点儿+ 没P<sup>-</sup>]  
((うちくだかれる)一歩手前のところでうちくだかれなかった。)

“差点儿+ P<sup>-</sup>” (P<sup>-</sup>となる一歩手前のところだった (“没P<sup>-</sup>”だった)) と “差点儿+ 没P<sup>-</sup>” ((P<sup>-</sup>となる) 一歩手前のところで“没P<sup>-</sup>”だった) とでは、文の意味は異なるが、結果的に「“没P<sup>-</sup>”だった」ことを表す点では同じである。仮にこの見方が正しいとすれば、先の (3) の表は次の (9) のように書き換えられる。

(9)

	肯定形式	否定形式
望む	A 差点儿 + P <sup>+</sup> = 没 P <sup>+</sup> (P <sup>+</sup> となる一歩手前だった)	B 差点儿 + 没 P <sup>+</sup> = P <sup>+</sup> (“没 P <sup>+</sup> ”となる一歩手前だった)
望まぬ	C 差点儿 + P <sup>-</sup> = 没 P <sup>-</sup> (P <sup>-</sup> となる一歩手前だった)	D 差点儿 + 没 P <sup>-</sup> = 没 P <sup>-</sup> (一歩手前のところで“没 P <sup>-</sup> ”だった)

「一歩手前のところだった」と「一歩手前のところで」は次のような関係にある。「一歩手前のところだった」は、想定と逆の事態になったことを論理的含意として述べるものである。一方、「一歩手前のところで」は、想定と逆の事態になったことをその後で直接述べるための表現である。

- (10) a. 勝てる一歩手前のところだった。(負けた)  
 b. 勝てる一歩手前のところで負けた。  
 c. \* 勝てる一歩手前のところで勝った。

「一歩手前のところだった」を「一歩手前のところで」と読み換えることは、前者の否定辞としての機能をなくすということだが、それは「想定と逆の事態になった」ということの述べ方を変えるだけで、文全体として「想定と逆の事態になった」ことを述べることに変わりはない。このような変更は、“没”が実質的な否定辞として機能しなくなるというのに比べて軽微な変更と言える。先に「“没”が否定辞として機能しなくなるのと、“差点儿”が否定辞として機能しなくなるのでは、後者のほうが起こりやすいと考える」と述べたのは、このような理由による。

### 3. なぜ“差点儿+没P<sup>-</sup>”だけが例外的か

前節の議論をふまえ、先の(6)の問題——“差点儿+没P<sup>-</sup>”だけ他のケースと意味解釈のあり方が異なるのはなぜか——について考える。

この問題について、まず思いつくのは次のような説明である。“差点儿”は意味的に一種の否定辞である。P<sup>+</sup>（望ましい事態）とP<sup>-</sup>（望ましくない事態）とが「P<sup>-</sup>=~P<sup>+</sup>」（「~」は否定を表す）という関係にあるとすると、“差点儿”を含む文の意味解釈においては、次のような計算がなされることになる。

- (11) a. 差点儿+P<sup>+</sup> = ~P<sup>+</sup>  
 b. 差点儿+没P<sup>+</sup> = ~~P<sup>+</sup> (= P<sup>+</sup>)  
 c. 差点儿+P<sup>-</sup> = ~~P<sup>+</sup> (= P<sup>+</sup>)  
 d. 差点儿+没P<sup>-</sup> = ~~~P<sup>+</sup>

(11a)は単純否定、(11b)は二重否定であり、(11c)も実質的に二重否定である。これに対し、(11d)は実質的に三重否定であり、事実上解釈不可となる。そこで、解釈不可の状態を解消するために、“差点儿”の否定の意味をなくし、実質的に二重否定にすることにより、「~~P<sup>+</sup>=P<sup>+</sup>」という形で解釈できるようにする。

この説明はシンプルだが、なぜP<sup>+</sup>（望ましい事態）を基準に意味の計算がなされるかがわかりにくい。ここでは次のような説明を考えてみる。

- (12) “差点儿”を含む文は、「努力しなければ望ましい事態は実現できない（望ましくない事態が発生する）」、すなわち「努力しなければ成功しない（失敗する）」という認識のもとで意味解釈がなされる。



「努力しなければ成功しない（失敗する）」、すなわち「～努力→～成功」  
=「～（～努力∧成功）」という認識のもとでは、「成功しない（失敗する）」  
については、「努力しても残念ながら成功しない（失敗する）」という場  
合（=13b）と、「努力しないで当然失敗する（成功しない）」という場合  
（=14a）が認められるが、「成功する」については、「努力してめでたく成  
功する」という場合（=13a）しか認められない。

- (13) a. 努力して成功する。[努力∧成功]  
b. 努力して成功しない。[努力∧～成功]
- (14) a. 努力しないで失敗する（成功しない）。[～努力∧～成功]  
b. ×努力しないで失敗しない（成功する）。[～努力∧成功]

このような認識の枠内で「成功（失敗）する一歩手前だった」という  
ことを述べるということは、(15a)、(15b)、(16a) の内容は述べられるが、  
(16b) の内容は述べられないということである。(15a)、(15b)、(16a)  
では「」の中の内容が成立するので、「その一歩手前だった」ということ  
も述べられるが、(16b) はそもそも「」の中の内容が成立しないので、「一  
歩手前だった」ということも述べられないのである。

- (15) a. “差点儿 + P<sup>+</sup>（成功）”  
「努力して成功する」一歩手前だった（残念ながら成功には  
至らなかった）。
- b. “差点儿 + 没 P<sup>+</sup>（成功しない）”  
「努力して成功しない（失敗する）」一歩手前だった（幸い  
失敗には至らなかった）。
- (16) a. “差点儿 + P<sup>-</sup>（失敗）”  
「努力しないで失敗する（成功しない）」一歩手前だった（幸

い失敗には至らなかった)。

b. “差点儿+没P<sup>-</sup> (失敗しない)”

「~~×努力しないで失敗しない(成功する)~~」——一步手前だった。

このように、“差点儿+没P<sup>-</sup>”は「一步手前のところだった」という“差点儿”の本来の解釈が適用できず、事実上解釈不可となる。その状態を解消するために、“差点儿”の意味を「一步手前のところだ」と読み換えて、“差点儿”を述語でなくす。それにより、“差点儿+没P<sup>-</sup>”を「一步手前のところで“没P<sup>-</sup>だった」というように、「“没P<sup>-</sup>だった」ことを述べる文として解釈できるようにする。このような読み換えはあくまで解釈不可の状態を解消するためであるから、「一步手前だった」という本来の解釈が可能なケース(差点儿+P<sup>+</sup>, 差点儿+没P<sup>+</sup>, 差点儿+P<sup>-</sup>)には適用されない。結果的に、“差点儿+没P<sup>-</sup>”だけが他のケースと意味解釈のあり方が異なることになる。(ただし、“差点儿+没P<sup>-</sup>”について「解釈不可状態の解消」が要請される理由は不明である。)

「努力しなければ成功しない(失敗する)」というのは、「力を加えなければモノは動かない」というのと同じで、世界に対する人間の認識として自然なものである。木村(2012)は、中国語の結果構文(「動詞+結果補語」の構造)において、主語が表す事物が動詞の表す動作の直接的な対象である場合は《好ましい》状況への変化を表すことができるが(例17a)、主語が表す事物が動作の直接の対象でない場合は《好ましくない》状況への変化しか表さない(例17b, 17c, 18a, 18b)ことを指摘し、(19)のような見通しを述べている。

- (17) a. 刀子磨快了。(包丁は研いで切れ味がよくなった)  
 b. 刀子切钝了。(包丁は(物を)切って切れ味が悪くなった)  
 c.\* 刀子切快了。(包丁は(物を)切って切れ味がよくなった)

(木村 2012:3-4)

- (18) a. 小李坐累了。(李さんは座り疲れた)  
b. \* 小李坐舒服了。(李さんは座って心地よくなった)  
(木村 2012:2)
- (19) 結果構文をめぐるこうした文法的事象は、物事とは、それを直接の対象として積極的な働きかけを行う努力があってこそ、望むべき《好ましい》結果が得られるものであり、その努力なくして無為に遣り過ごせば、あるいは放置すれば、結果として物事は概ね《好ましくない》状況に至ってしまうという、人間の経験的知識に基づく普遍性の高い世界観を反映する現象として捉えることも可能（略）  
(木村 2012:4)

“差点儿”を含む文は、「望ましい事態の実現（成功）」、「望ましくない事態の発生（失敗）」という結果を述べる文である。“差点儿”を含む文が「努力しなければ望ましい事態は実現できない（望ましくない事態が発生する）」という認識のもとで意味解釈がなされるのも、(19) に類する現象としてとらえられるかもしれない。

#### 4. 朱（1980）の分析との関係

“差点儿”は筆者の手に負えない表現である。本論も「日本語研究者の目には朱（1980）の議論はこのように見える」ということを書き留めたにすぎない。

朱（1980）は、“差点儿+没P-”の形式について「おそらくは後に起こった逸脱現象である」と述べたうえで、次のように述べている（説明中の略号は本論の表記に従って改変）。

- (20) 待ち望まないことが発生しないことを表すためには、本来“差点儿+P<sup>-</sup>”の形式を用いればよいのである。しかし話し手が事柄が発生しなかったという点を強調するために、さらにP<sup>-</sup>の前に否定詞“没”をつけ加えたのである。この“没”は実際には余剰的な成分である。我々が“差点儿+没P<sup>-</sup>”を後に起った形式と見るにあたっては、もうひとつの証拠がある。周知のように、動詞の前の“没”と動詞の後の“了”は共起しえない。“差点儿+没P<sup>-</sup>”の形式の“差点儿没死了(あやうく死ななかつた)”はこの規則にあわない。このこともこの種の文型が“差点儿+P<sup>-</sup>”の形式にむりやり“没”をつけ加えて形成されていることを物語っている。

(朱 1980 (松村・杉村訳) 1988:241、  
本論の表記に従って一部改変)

朱 (1980) の見方に対して、本論では、次のような見方を示した。

- ① “差点儿+没P<sup>-</sup>”という形式は本来解釈不可であり、それを解消するために、本来「一歩手前のところだった」という意味を表す“差点儿”が「一歩手前のところで」という意味に読み換えられる。
- ② “差点儿+没P<sup>-</sup>”が本来解釈不可なのは、“差点儿”を含む文の意味解釈が「努力しなければ望ましい事態は実現できない(望ましくない事態が発生する)」という認識を基盤としてなされるためである。

①の見方は、“差点儿+没P<sup>-</sup>”を「むりやり形成された形式」とする見方を引き継いでいる。また、②の見方は、“差点儿”の意味解釈に「事態の望ましさ」が関与していること背景について説明したものである。

“差点儿+没P-”を「一歩手前のところで“没P-”だった」という意味の文と見る点も、「事柄が発生しなかったという点を強調するために」という見方と通ずるところがあるかもしれない。

一方で、本論のように、“差点儿+没P-”の意味を「一歩手前のところで“没P-”だった」という形でとらえる、すなわち“没”は余剰的な成分ではないと考えると、“差点儿没死了”のような文が成立することは説明できない。その点からすると、“差点儿+没P-”を「一歩手前のところで“没P-”だった」という意味の文と見るのは、やはり誤りなのかもしれない。その場合でも、“差点儿+没P-”だけが例外的（逸脱現象）なのは②の理由によるものという見方を変える必要はないと思われる。

## 引用文献

- 木村英樹（2012）『中国語文法の意味とかたち——「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究——』白帝社
- 渡边丽玲（1994）「“差一点”句的逻辑关系和语义结构」《语言教学与研究》1994年第3期
- 吕叔湘主编（1999）《现代汉语八百词 增订本》商务印书馆（牛島徳次・菱沼透監訳（2003）『中国語文法用例辞典』東方書店）
- 石毓智（2001）《肯定和否定的对称与不对称 增订本》北京语言文化大学出版社
- 朱德熙（1959）「说“差一点”」《中国语文》1959年第9期（《朱德熙文集第二卷》商务印书馆）
- 朱德熙（1980）《现代汉语语法研究》商务印书馆（松村文芳・杉村博文訳1988）『现代中国語文法研究』白帝社）

**【付記】** 筆者は人と話をしないと考えがまとまらないタイプで、島津さんにもよく考えていることを聞いてもらった。島津さんは素直な人で、わかりにくいところや話が飛躍しているところがあると、すぐに「え？」という表情をする。それがおもしろくていろいろ話をしたというところもある。本論も島津さんとのおしゃべりのつもりで書いた。

